

配置中学校区数	12校区
---------	------

S S W実人数	12名
----------	-----

1 S S Wの年間勤務時間数及び勤務日数

① 年間勤務時間数	① 4665.8 時間
② 年間勤務日数	② 589 日
③ 平均勤務時間数（一日当たり）①／②	③ 7.9 時間/日

2 支援の対象となった児童生徒数（実人数）

	対象児童生徒数 (人)	
		うち継続者数
① 小学校	① 585	423
② 中学校	② 353	270
③ 特別支援学校	③ 0	0

3 継続支援対象児童生徒の抱える問題と支援状況  
(複数選択可)

件数	支援状況 (件)				
	(a) 問題が解決	(b) 支援中であるが好転	(c) 支援中	(d) その他	
① 不登校	① 328	0	38	263	27
② いじめ	② 6	2	0	4	0
③ 暴力行為	③ 8	1	2	5	0
④ 児童虐待	④ 29	4	9	16	0
⑤ 友人関係の問題 (②を除く)	⑤ 65	3	19	40	3
⑥ 非行・不良行為 (③を除く)	⑥ 11	1	1	9	0
⑦ 家庭環境の問題 (④、⑪を除く)	⑦ 325	2	31	270	22
⑧ 教職員等との関係の問題	⑧ 44	2	9	27	6
⑨ 心身の健康・保健に関する問題 (うち、自傷行為・希死念慮の内数)	⑨ 117 (18)	4 (3)	9 (1)	90 (14)	14
⑩ 発達障害等に関する問題	⑩ 274	6	10	237	21
⑪ 貧困の問題 (⑦を除く) (うち、ヤングケアラーの内数)	⑪ 38 (2)	6	8	23 (2)	1
⑫ 性犯罪被害の問題	⑫ 2	0	0	2	0
⑬ その他	⑬ 136	9	5	85	37
対応件数合計	件 1383				

4 訪問活動の回数

① 学校	① 671 回	
② 家庭	② 321 回	
③ 教育相談センター (適応指導教室含む)	③ 54 回	
④ 教育委員会 (③を除く所管機関も含む)	④ 2 回	
⑤ その他関係機関	⑤ 102 回	
	訪問合計	1150 回

5 成果と課題

- ・福祉的な視点から支援を行うことにより、学校と家庭との橋渡しの働きを担うことができた。
- ・昨年度比較で、訪問回数が支援の対象児童生徒数に大きな変化が見られないものの、支援状況の件数と訪問活動回数が1割程度の増加が見られた。
- ・教育相談センター内に学校支援ソーシャルワーカーを配置したことにより、学校配置のスクールソーシャルワーカーの力量の向上や、連携による多面的支援体制が充実し、教育の場における福祉的な支援体制をより高めることができた。
- ・チーム学校として、学校の抱える諸問題に対して、「教育」「福祉」「心理」と専門性の高い職員による多角的な支援体制の充実が図れるようになってきている。
- ・ニーズが高まる一方で勤務日数が週1日であるため、深い関わりができにくいところは課題である。

